

SDGs未来都市進捗状況結果報告シート

2018年度選定

奈良県十津川村

2024年9月

SDGs未来都市計画名

～持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想～

奈良県十津川村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	起業支援者数【8,8.2】	2018年 4件	2023年 2件	2030年 24件	-10%	目標達成度が低いため、認定創業支援等事業計画を推進し、起業家へのサポートをしっかりと行うとともに、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。
2	若者転入者数【11,11.3】	2019年 47名	2023年 59名	2030年 77名	40%	目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。
3	林道の新規開設【13,13.1】	2020年 801m	2023年 1,209m	2030年 1,550m	78%	目標達成に向けて引き続き進捗を確認していく。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 （%）	第3期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	林業と観光業の総合的な事業運営による産業創出	起業支援数	2019年 4件	2023年 2件	2030年 24件	-10%	目標達成度が低いため、認定創業支援等事業計画を推進し、起業家へのサポートをしっかりと行うとともに、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。
2	林業のブランディングによる差別化	「十津川郷土の家ネットワーク」加盟工務店数	2020年 6件	2023年 6件	2024年 8件	0%	目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第3期計画では見直しを行う。
3	流通管理による最適な木材供給	十津川材を活用した年間建築工事件数	2018年 49件	2023年 8件	2024年 70件	-195%	目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第4期計画では見直しを行う。
4	インバウンド旅行者の拡大	インバウンド旅行者数	2019年 1,329名	2023年 1,120名	2023年 2,000名	-31%	第2期計画においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、目標達成率は低いが、引き続き第3期計画で進捗を確認していく予定。
5	新たな産業創出による若者移住促進	若者転入者数	2019年 47名	2023年 59名	2023年 77名	40%	目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。
6・1	林業6次産業化の推進による従事者の確保（一次産業）	従業員数	2018年 85名	2023年 73名	2024年 110名	-48%	目標達成度が低いが、林業振興のための補助金を拡充し第3期計画では引き続き進捗を確認していく。
6・2	林業6次産業化の推進による従事者の確保（一次産業以外）	従業員数	2018年 22名	2023年 13名	2024年 40名	-50%	目標達成度が低いが、林業振興のための補助金を拡充し第3期計画では引き続き進捗を確認していく。
7	実践的な人材育成システム構築	フォレスター数	2020年 0名	2023年 1名	2023年 2名	50%	目標達成度が低いが、第3期計画では引き続き進捗を確認していく。
8	民泊による空き家／廃校施設の有効活用	空き家バンク成約件数	2019年 9件	2023年 8件	2024年 22件	-8%	目標達成度が低いため、第3期計画ではKPIを単年度目標と累積目標に見直し推進を図る予定。
9	森林保全による防災機能強化	林道の新規開設	2020年 801m	2023年 1,209m	2024年 1,550m	54%	目標達成に向けて引き続き進捗を確認していく。
10	景観の改善による観光人口拡大	観光客入込客数	2019年 730,638名	2023年 642,662名	2024年 825,000名	-93%	目標達成度が低いが、周遊観光バスを運行するなど、利便性を向上させるなど、入込客数確保に向けて第3期計画ではKPIの見直し、進捗を確認していく。
11	生物多様性の維持・確保	シンボル種の選定と保全手法の開発	2019年 0種	2023年 10種	2021年 5種	200%	目標が達成できており、第3期計画ではKPIを見直す予定。
12	流通一元管理によるリサイクルの促進	村内木材利用率	2019年 0.48トン	2023年 0.19トン	2023年 2.25トン	-16%	目標達成度はできておらず、今後の見通しが立たないため指標自体を第3期計画では見直しを行う。

奈良県十津川村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(3) 第2期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容

No.4 十津川村インバウンド受入協議会において、インバウンド旅行者数の増加施策と自主財源の確保に向けて、観光庁の補助金「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」の採択を受け、ユネスコ無形文化遺産に登録された「十津川大踊り」を中核とした体験コンテンツ及びPR動画を作成した。加えて、英語対応可能なローカルガイドの育成を行った。

●成果

No.7 実践的な人材育成システム構築において、奈良県と連携を図るフォレストアカデミーを卒業したフォレスターが十津川村に着任された。今後も連携を図りながらフォレスターの確保に繋げていく。

No.9 林業従業者の安全と環境の保全に配慮した林道の新規開設を着々と進めた。

No.11 十津川村環境保全審議会においてシンボル10種の指定を行った。今後は保全手法の開発に向けて議論を進めていく。

●課題

No.1 村内の起業支援数においては、事業承継の課題や新規起業者のための特定創業支援等事業の充実を図り、新たな産業創出に繋げていきたい。

No.3 十津川材を活用した年間建築工事件数、No.6-1、No.6-2林業事業員数の確保、No.12村内木材利用率の達成度が低い理由が、林業の6次産業化が思うように進んでいないため、第3期計画においては見直しが必要だと考えている。

No.4 インバウンド旅行者数については、コロナ前近くまで回復してきている。本村への旅の目的のほとんどは熊野古道であるが、宿泊キャパが足りずボトルネックとなっているエリアがあるので、2次交通を充実させ、宿泊者数の増加に繋げていく。

No.8 空き家バンク成約件数については、空き家は多く存在するが、すぐに住める空き家が少なく、相談件数は毎年30件以上あるがハード面に対応できていない状況であるため、空き家の改修補助金を充実し移住の受け皿を増やしていく。

No.10 観光客の入込客数については、コロナ禍以降徐々に回復傾向ではあるが、目標の達成度は低いため、入込客数だけではなく観光の指数を目標にする必要があると考えている。

●今後の展望

当初の計画では、林業6次産業化を掲げ、林業・木材産業の振興施策を推進することで、木材生産量・加工流通量において一定の成果をもたらしたが、なかなか2次、3次事業者への裾野を広げることが出来ない現状がある。ただ、村の基幹産業であることは疑いの余地がなく、引き続き林業の在り方については、森林（もり）づくり審議会で議論を継続していく。一方で観光業においては、コロナによる事業者への影響は多岐に及ぶ、加えて高齢化の波が直前に迫ってきている。既存産業の承継と新たな産業の創出の両面においても、移住者やUターンへの起業支援ならびに住環境整備はより重点的に推進する必要があると考えている。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・ブランディングや従業員数の確保等林業の活性化には工夫が求められているように思われる。

・全体的に目標達成度が低いものが多く、現状や今後の見通しを踏まえ、改めてKPIや指標の見直しを図られると良い。インバウンド旅行者の回復は好ましいことだが、オーバーツーリズムの対応や、林業・木材産業の振興を、その他産業振興へと波及させる方策に重きを置かれると良い。